

昭和62年度
帰国研修員フォローアップチーム
公開技術セミナー
(沿岸漁業振興)

昭和62年12月

国際協力事業団
研修事業部

昭和 62 年 度
帰国研修員フォローアップチーム
—公開技術セミナー—
(沿岸漁業振興)

JICA LIBRARY



1041985E11

昭和 62 年 12 月

国際協力事業団
研修事業部

国際協力事業団	
受入 月日 88.4.6	000
登録No. 17434	89.4
	TAD

序 文

当事業団は、神奈川国際水産研修センターにおいて実施してきた、沿岸漁具漁法Ⅰ（実技）、Ⅱ（理論）、漁業協同組合、小型漁船の船体・機関保守コースに参加した帰国研修員に対するアフターケア業務の一環として沿岸漁業振興分野の公開技術セミナーチームを昭和62年 9月29日から10月26日まで、チリ、アルゼンティンに派遣した。

本セミナーでは指導の波及効果を高めるため、分野を広げ、かつ対象者も帰国研修員にとどめず所属先関係者、関係機関、の者まで含め、JICA事業の紹介、最新技術情報の提供、適性技術の把握、コースのフィードバックのための提言等をおこなった。

本報告書はこれらの結果を取り纏めたものである。関係各位の参考に供しうれば幸甚に存する次第である。

なお、最後に本セミナーの実施に当たられた調査団員各位及び多大の協力を賜った関係各位に深甚たる謝意を表する次第である。

昭和62年12月

国際協力事業団
研修事業部長

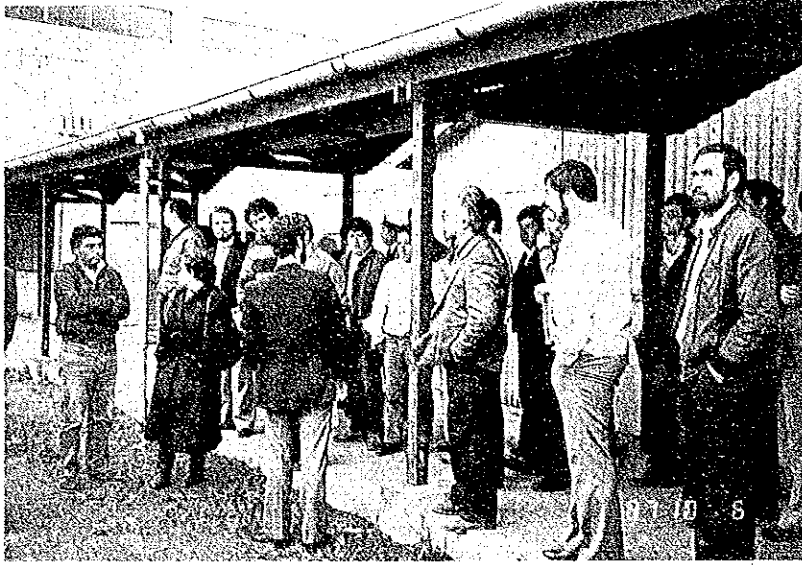
(チ リ)



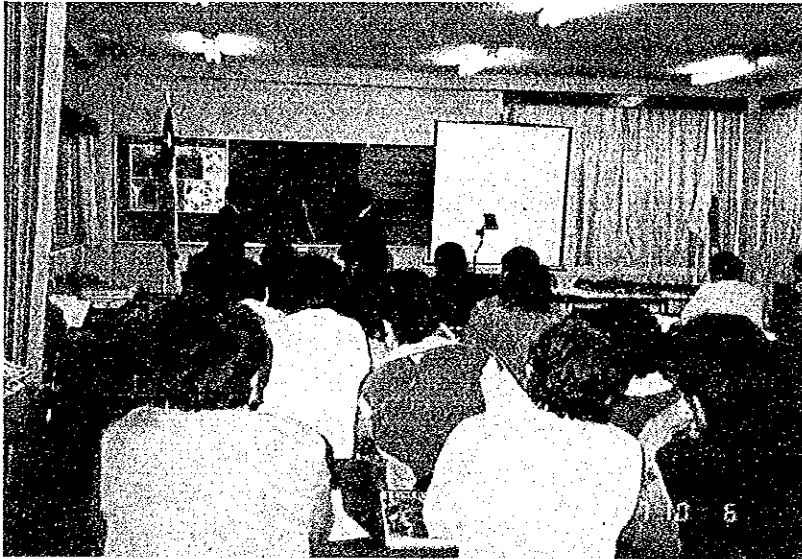
受 付 風 景



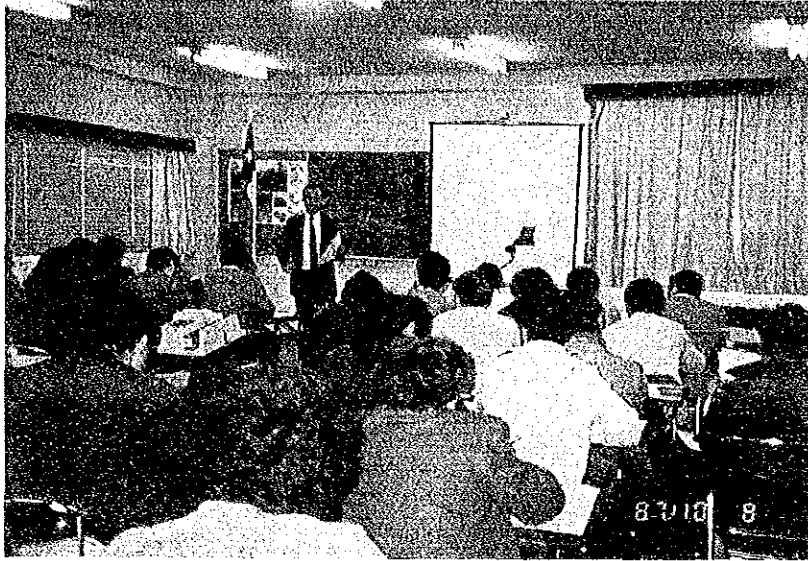
開講式：ボンセ所長挨拶



JICAプロジェクト見学



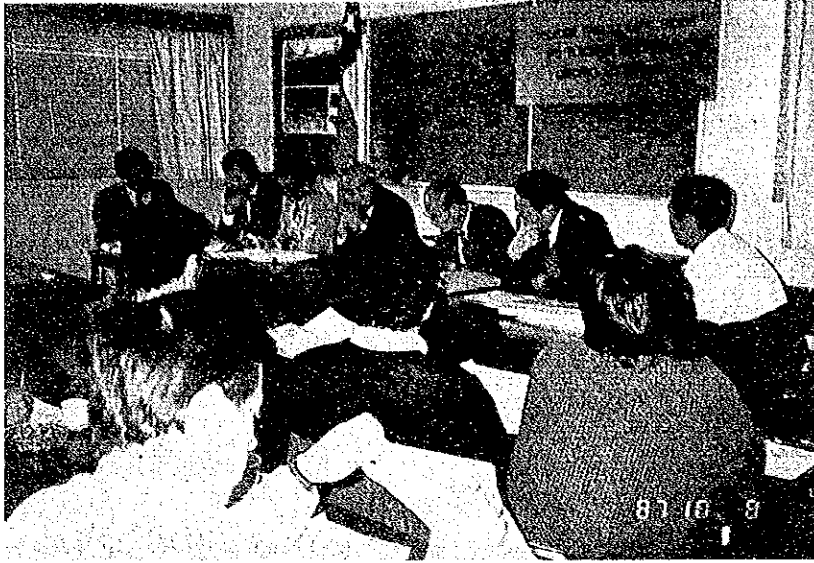
講義風景：森団長の講義



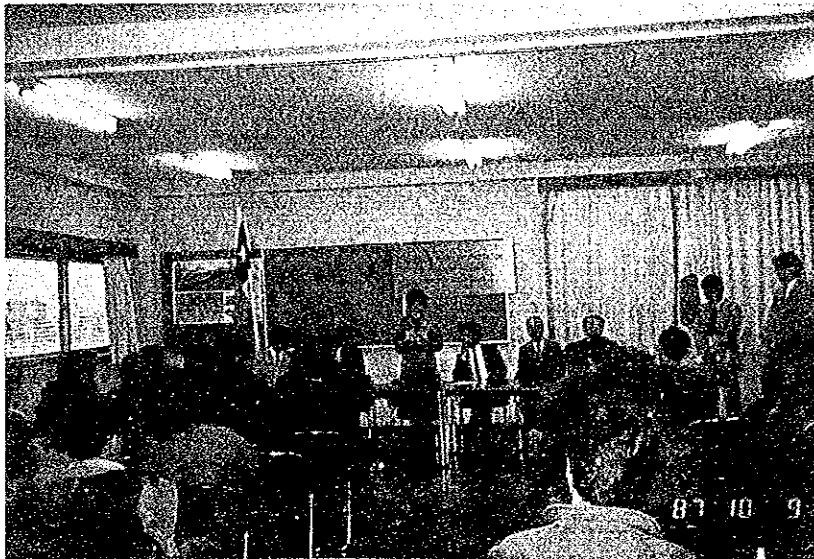
議員風景：斎藤団員の講義



参加者の受講風景



参加者との質疑応答風景



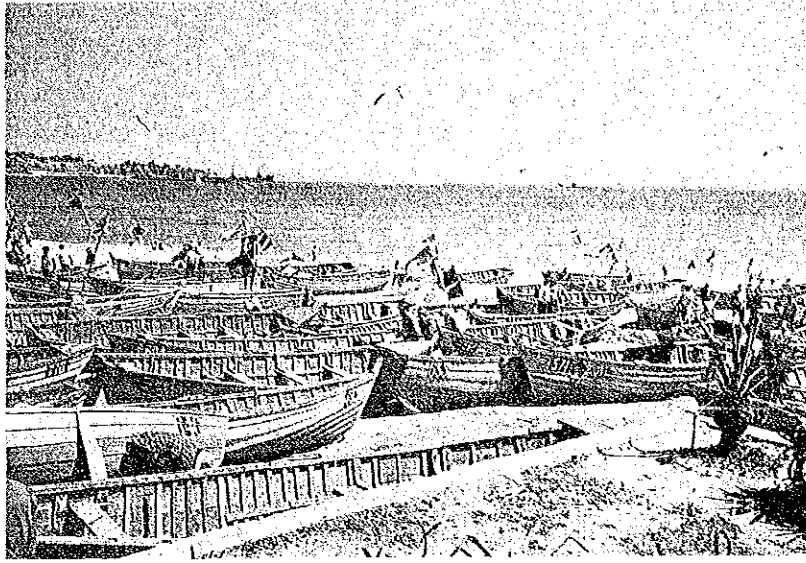
閉講式：倉持 J I C A チリ 所長 挨拶



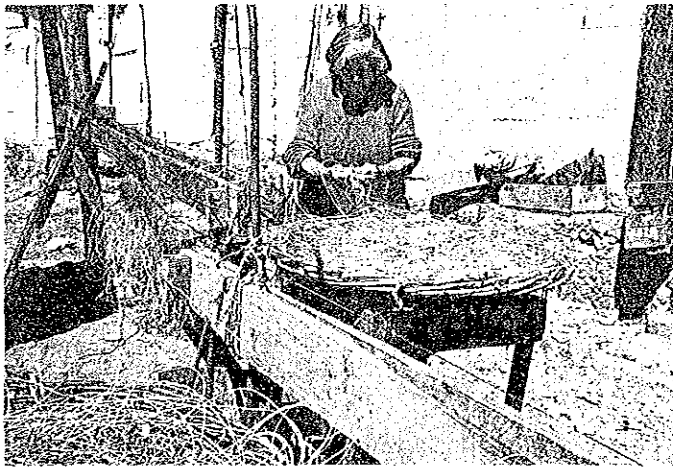
閉講式後の参加者とのカクテルパーティ



帰国研修員との懇談会

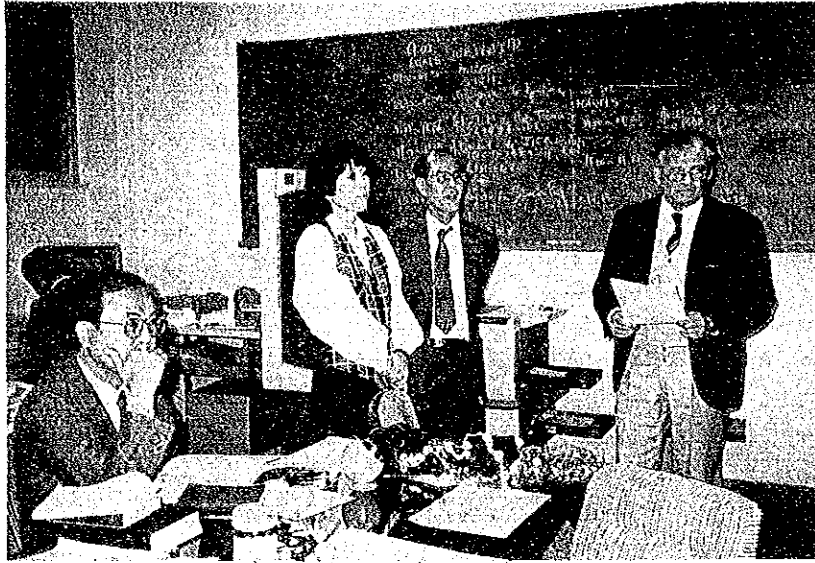


バルパライソ近郊の船溜り



網を繕う漁民

(アルゼンティン)



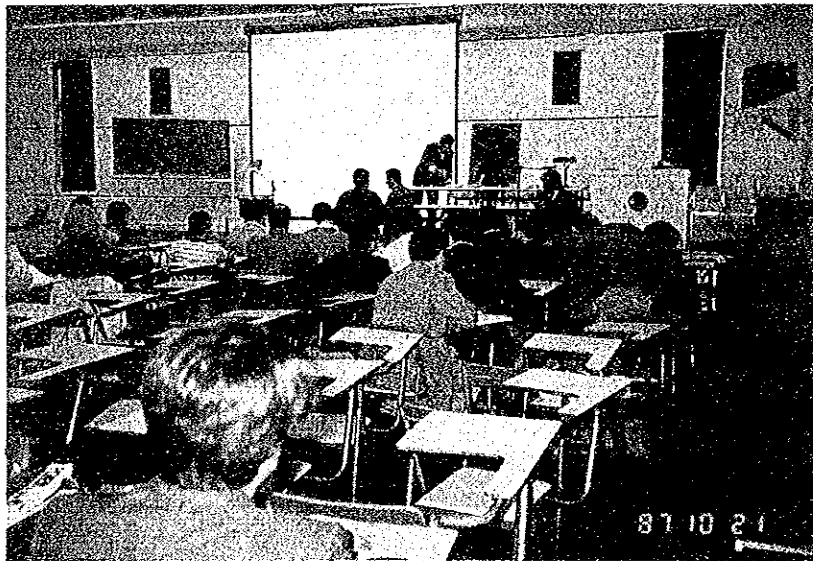
セミナー実施についての打合せ



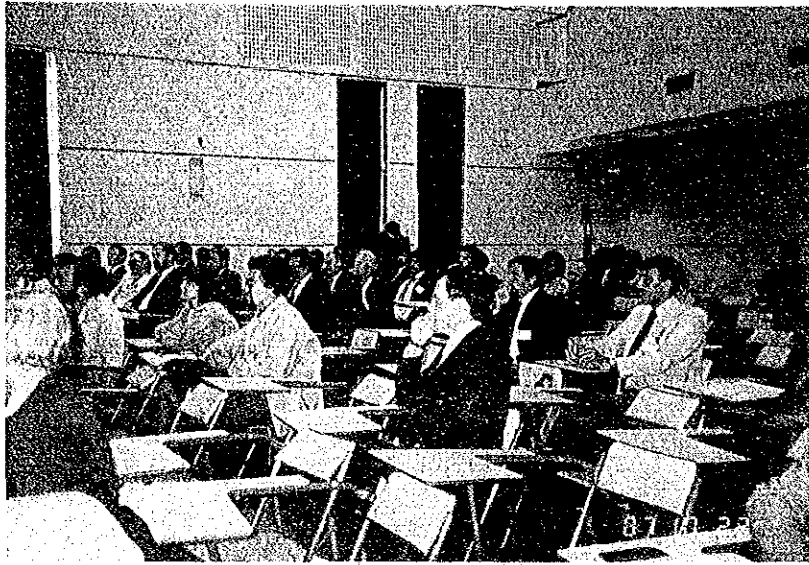
開講式：森団長挨拶



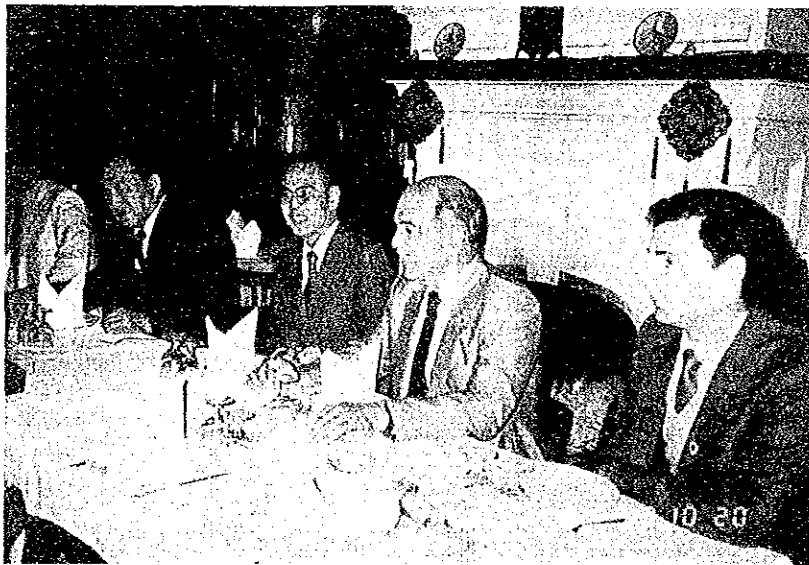
講義内容についての打合せ：森団長と帰国研修員



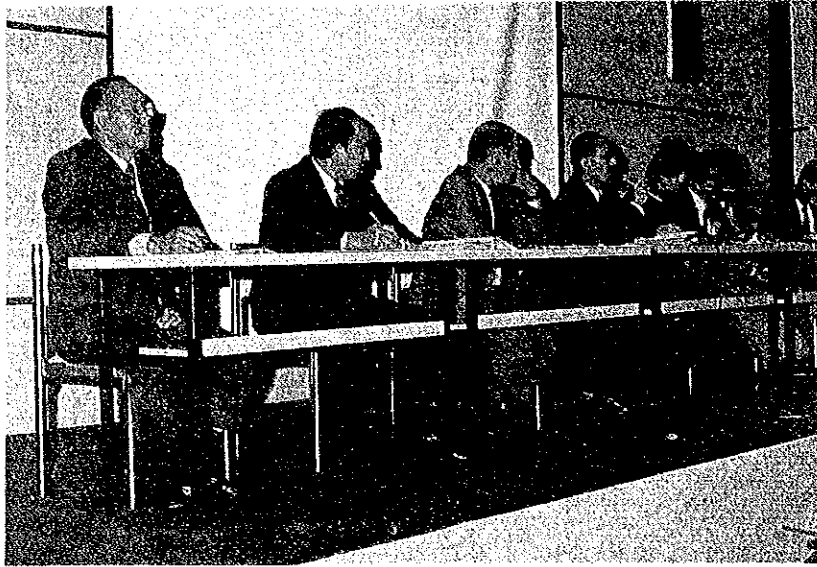
講義風景：世古団員



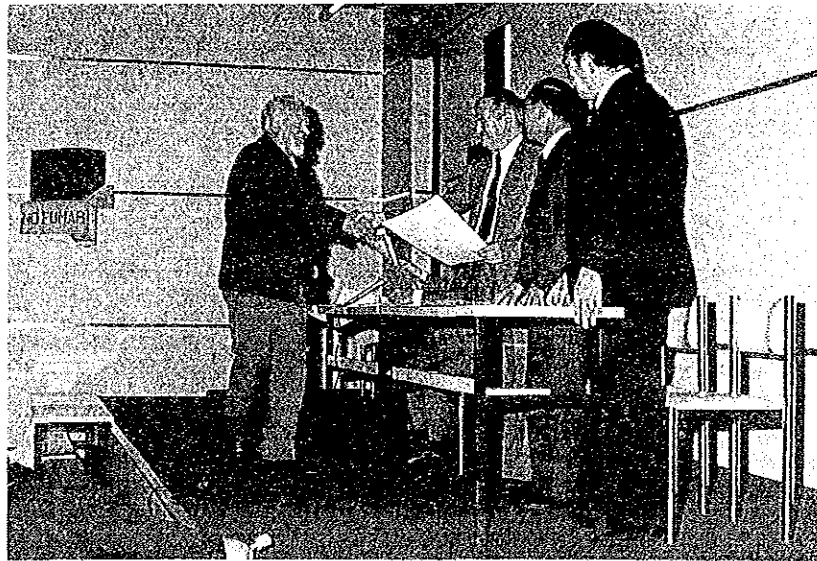
参加者の受講風景



帰国研修員との懇談会



参加者の質問に応える森団長



閉講式：修了証書の授与風景



閉講式後の参加者とのカクテルパーティ



閉講式後の参加者とのカクテルパーティ

公開技術セミナー報告書目次

序文

写真

目次

I. 公開セミナー・チームの派遣基本構想	1
1. 趣旨	1
2. 業務内容	1
3. 実施体制及び運営	1
4. セミナー参加者	1
II. セミナーの実施計画	1
1. セミナーのテーマ	1
2. テーマ設定の目的	1
3. セミナーにおける講義課題	1
4. セミナーの計画日程と内容	2
5. セミナー実施予定場所	2
6. チーム派遣日程	3
III. 派遣チームの団員構成	3
IV. セミナーに使用するテキスト	3
V. チームの日程	3
VI. セミナーの実施状況	5
1. チリの部	5
(1) セミナー開催に係る準備	5
(a) チリ JICA 事務所にて	5
(b) Centr Lo Rojasにて	6
(2) セミナーの開催	6
(a) セミナーのプログラム	6
(b) 参加者よりの質問事項	7

- a 定置網漁業関係 7
- b 漁業協同組合関係 7
- c 小型船舶の機関保守関係 8
- (c) 参加者のその他の意見 8
- (d) 帰国研修員との意見交換 8
- 2. アルゼンティンの部 8
 - (1) セミナー開催に係る準備 9
 - (a) アルゼンティン J I C A 事務所にて 9
 - (b) Escuela Nacional de Pesca にて 9
 - (2) セミナーの開催 9
 - (a) セミナーのプログラム 9
 - (b) 帰国研修員との意見交換 10
 - (c) 質疑応答 11
 - a 定置網漁業関係 11
 - b 漁業協同組合関係 11
 - c 小型船舶の機関保守関係 12
 - d J I C A の技術協力関係
- Ⅶ. セミナーに係る所感 12
 - 1. チリの部 12
 - 2. アルゼンティンの部 13
- Ⅷ. アンケートについて 13
- Ⅸ. 提 言 16
- X. 添付資料 17
 - 1. 掲載新聞記事 (コピー)
 - 2. 参加者名簿
 - 3. 使用テキスト
 - 4. アンケート用紙
 - 5. 終了証書

チリ・アルゼンティンにおける公開技術セミナー派遣チーム実施報告書

I. 公開セミナー・チームの派遣基本構想

本チームの派遣基本構想は下記の通り策定されている。

1. 趣旨

従前巡回指導は、専ら特定集団コースの帰国研修員を対象に実施してきたが、今後これに加え、指導領域を特定コース分野に限定せず、これに隣接する関連分野まで広げ、且つ、対象者も帰国研修員にとどめず、所属先関係者はもちろんのこと、関連機関の者まで含めるなど、裾野を広げる案件も一部取り入れることにより、指導の波及効果を高めることとする。

2. 業務内容

- ① 当該分野に関する J I C A 事業現状の紹介を行なう。
- ② 当該分野に関するわが国の最新の技術情報の提供。
- ③ 当該分野における現地適正技術等、技術的問題点を把握し、その解決のための助言を行なう。
- ④ 当該分野に関するわが国の研修に対するニーズの把握を行なう。
- ⑤ 帰国研修員及び受講者等を含む評価会を開催し、本セミナーに対する評価を行なう。
- ⑥ 以上の結果をふまえ、当該分野における各研修コースプログラムの改善、新設コース設定検討等今後の研修員受入事業に係る各種提言を行なう。

3. 実施体制及び運営

セミナー班は、当該国の J I C A 事務所もしくは大使館との緊密な連絡と協議のもとにセミナーの準備、実施、運営にあたる。また、実施にあたっては、当該分野の派遣専門家及びそのカウンターパート、当該国の同窓会等の協力を得てセミナーの円滑かつ効率的な運営を図ることとする。

4. セミナー参加者

- ① 帰国研修員
- ② 帰国研修員の所属機関等関係機関に所属する者
- ③ 当該国の技術協力窓口機関に所属する者

II. 本セミナーの実実施計画

チリ・アルゼンティンに於ける公開技術セミナーの実実施計画は J I C A 神奈川国際水産研修センターが中心となり、下記の通り策定された。

1. セミナーのテーマ：

日本の沿岸漁業振興と定置網漁業

2. テーマ設定の目的

200海里経済水域の設定により開発途上国は近年独自にこの水域の漁業開発を目指しており、また資源の荒廃が開発途上国においてもみられるところから資源管理型の定置網漁業が注目を浴びつつある。沿岸漁業振興の一つのモデル策として定置網漁業、及び定置網漁業を通じて沿岸漁民の組織化、それにともなる小型船舶の保守、普及の重要性を紹介する。このセミナーを通して水産分野における両国の現地適正技術、技術的問題点及びニーズを把握することにより今後の研修員受入事業の向上改善に資することを目的とする。

3. セミナーにおける講義課題

- ① 日本の沿岸漁業と定置網漁業
- ② 日本の定置網漁業における漁業協同組合
- ③ 定置網漁業における小型船舶機関の保守及び普及

4. セミナーの計画日程と内容

チリ及びアルゼンティン兩國において実施するセミナーの日程とその内容についての計画は下記の通りである。

セミナー概要	準備期間	チリ JICA 事務所、日本大使館、派遣専門家、現地協力機関等との打合せ
	第 1 日	午前 開講式 水産分野における JICA 事業の現況紹介 チリ国における JICA 事業の現況紹介 午後 カントリーレポートの発表 JICA プロジェクト視察 (チリ沿岸漁業訓練普及計画)
	第 2 日	講義 日本の沿岸漁業振興と定置網漁業 沿岸漁業 (定置網漁業) における漁業協同組合 (質疑応答を含む)
	第 3 日	講義 定置網漁業と小型船舶機関の保守及び普及 (質疑応答を含む) 『沿岸漁業振興』に関する討論 (パネルディスカッション)
チリ国	第 4 日	午前 参加者によるレポート作成 (今後の技術協力に対する要望) アンケート記入・評価会 午後 閉講式

セミナー概要	準備期間	アルゼンティン JICA 事務所、日本大使館、派遣専門家、現地協力機関等との打合せ
	第 1 日	午前 開講式 水産分野における JICA 事業の現況紹介 アルゼンティン国における JICA 事業の現況紹介 午後 カントリーレポートの発表 JICA プロジェクト視察 (アルゼンティン国立漁業学校)
	第 2 日	講義 日本の沿岸漁業振興と定置網漁業 沿岸漁業 (定置網漁業) における漁業協同組合 (質疑応答を含む)
	第 3 日	講義 定置網漁業と小型船舶機関の保守及び普及 (質疑応答を含む) 『沿岸漁業振興』に関する討論 (パネルディスカッション)
アルゼンティン国	第 4 日	午前 参加者によるレポート作成 (今後の技術協力に対する要望) アンケート記入・評価会 午後 閉講式

5. セミナー実施場所

- ① チリ : Centro de Pesca Artesanal en Rojas, Concepcion
- ② アルゼンティン : Escuela Nacional de Pesca, Mar del Plata

6. チーム派遣日程

昭和62年9月29日より同年10月26日までの28日間

Ⅲ. 派遣チームの団員構成

	氏 名	担 当 業 務	所 属 先
1	森 敬四郎	団 長・講 師 (沿岸漁業と定置網漁業)	(元)水産庁水産工学研究所
2	斎藤 隆志	講 師 (定置網漁業と漁業協同組合)	国際協力事業団 国際協力総合研修所
3	世古 明也	講 師 (小型船舶の機関保守と普及)	ヤマハ発動機株式会社
4	野津 善男	業務調整	国際協力事業団 神奈川国際水産研修センター

Ⅳ. セミナーに使用するテキスト

本セミナーに使用するため下記のテキストを作成した。

① 沿岸漁業の振興と定置網漁業

Sesarrollo de la Pesca Costera y Explotacion de Pesca con Arte de Almadraba
por : Keishiro MORI

② 定置網漁業と漁業協同組合

Pesca de Almadraba y su Cooperativa
por : Takashi SAITO

③ 定置網漁業における小型船舶機関の保守と普及

Pesca de Almadraba , Mantenimiento y Extension del Motor Marino
por : Akiya SEKO

Ⅴ. チームの日程

9月29日(火) 成田 発

30日(水) リオ デ ジャネイロ 着

10月1日(木) リオ デ ジャネイロ 発

サンチャゴ 着

(面会者)

JICAチリ事務所にて打合せ

倉持所長

2日(金)	在チリ日本大使館表敬 チリ外務省技術協力課表敬 漁業次官官房表敬 (地震工学セミナー見学)	搞参事官 御前一等書記官 Marcela R. Arago (課長補佐) Rene A. Lezaeta
3日(土)	サンチャゴ 発 コンセプトン 着	
4日(日)	日本人専門家との打合せ	山田諠チームリーダー
5日(月)	漁業訓練普及センター表敬 セミナー開催準備	Fernando Ponce (センター所長)
6日(火)	公開技術セミナー開催 開講式 JICAの水産分野における 技術協力の概要説明 映画上映(日本の沿岸漁業) プロジェクト見学	(担当者) 野津団員
7日(水)	講演:日本の沿岸漁業と定置網漁業 講演:定置網漁業と漁業協同組合	森団長 斉藤団員
8日(木)	講演:定置網漁業と小型船舶の保守 チリの漁業の概要説明 Colukuraにおける漁業組合の概要説明 参加者との質疑応答	世古団員 Sr. Oscar S. Saavedra (漁業局第8州局長) Sr. Luis G. Gonzalez (Colukura 漁業協同組合長) 森団長、斉藤団員、世古団員 山田諠リーダー、竹内武専門家
9日(金)	閉講式 修了証書の授与 カクテルパーティ JICA帰国研修員との懇談会	森団長、倉持JICAチリ事務所々長 Ponce 所長
10日(土)	コロネル市近郊の漁村視察	
11日(日)	コンセプトン市近郊の漁村視察 コンセプトン 発	

	サンチャゴ 着	
12日(月)	バルパライソ市近郊の漁村視察	
13日(火)	サンチャゴ 発	
13日(火)	ブエノス アイレス 着	(面会者)
	JICAアルゼンティン事務所表敬	福田所長 江塚職員
14日(水)	JICAアルゼンティン事務所にて打合せ	江塚職員 長島通訳 木村専門家 Cap. Justo Alberto I. Otriz
	海軍教育総局表敬	Contraalmirante Emilio I. Nigoul (総局長)
	日本大使館表敬	山下大使 西尾書記官
15日(木)	ブエノス アイレス 発	
	マル デル プラタ 着	
	国立漁業学校表敬	Cap. Justo Alberto I. Ortiz (校長)
	日本人専門家との打合せ	
16日(金)	国立漁業調査開発研究所表敬	Dr. Antonio E. Malaret (局長)
17日(土)	セミナー開催準備	
18日(日)	セミナー開催準備	
19日(月)	公開技術セミナー開催 開講式	(担当者) 野津団員
	JICAの水産分野における 技術協力の概要説明	
	映画上映(日本の沿岸漁業)	
	JICAのアルゼンティンにおける 技術協力の現状説明	福田JICAアルゼンティン事務所々長
	日本との技術協力における 国立漁業学校の概要説明	Cap. Justo Alberto I. Ortiz (校長)
	プロジェクト見学	
20日(火)	講演:日本の沿岸漁業と定置網漁業	森団長
	講演:定置網漁業と漁業協同組合	斉藤団員
	JICA帰国研修員との懇談会	

21日（水）	講演：定置網漁業と小型船舶の保守 帰国研修員の研究発表 参加者との質疑応答	世古団員 Eng . Miguel Alfonso 森団長、斉藤団員、世古団員、野津団員、 木村雄吉リーダー、猪本善治郎専門家 Cap . Justo Alberto I. Ortiz (校長) Prof . Diego R . Maqui (漁業学校 教授) Eng . Miguel Alfonso (帰国研修員)
22日（木）	閉講式 修了証書の授与 評価会	森団長、木村リーダー、Ortiz 校長 森団長、斉藤団員、世古団員、野津団員、 木村雄吉リーダー、猪本善治郎専門家 Cap . Justo Alberto I. Ortiz (校長) Prof . Diego R . Maqui (漁業学校 教授) Eng . Miguel Alfonso (帰国研修員)
	カクテルパーティ	
23日（金）	マル デル プラタ 発 ブエノス アイレス 着 JICA 事務所への報告	
24日（土）	ブエノス アイレス 発	
26日（月）	成田 着	

Ⅶ. セミナーの実施状況

1. チリの部

開催場所

Centro de Pesca Artesanal (Lo Rojas, CORONEL ; VIII Region) の講堂

(i) セミナー開催に係る準備

(a) チリ JICA 事務所にて：

10月1日及び2日、JICA 事務所において倉持所長と団員と木戸通訳を交えて下記の事項について打合せを行った。

- a セミナー日程、時間、内容の詳細
- b 参加者及び来賓の予測
- c 参加者に授与する修了証書70枚の準備
- d 開催案内状送付

(送付先)

- ・ Ministerio de Relaciones Exteriores
Depto. de Asistencia Técnica
Sr. Claudio Mac-Auliffe (Jefe)
- ・ Ministerio de Economía Fomento y Reconstrucción
Sr. Roberto Cabezas Bello (Subsecretario de Pesca)
- ・ Servicio Nacional de Pesca
Sr. Ivan Petrowitch (Director Regional de la VIII Region)
- ・ Centro de Capacitacion y Difucion de las Actividades Pesca Artesanal
Sr. Fernando Ponce (Director)
- ・ SERPLAC (VIII Region)
Sr. Alvaro Munoz (Secretario Regional de Planificacion y Coordinacion)
- ・ Instituto de Fomento de Pesca
Sr. Arturo Ried S. (Director)
- ・ Expertos Japoneses de JICA (Centro Lo Rojas)
Sr. Yoshimi Yamada
Sr. Ryosaku Eguchi
Sr. Tomonori Sanui
Sr. Takeshi Takeuchi
- ・ Ex-Becarios de JICA
- ・ その他

(b) Centro Lo Rojasにて

10月5日Centroにて所長及びJICAプロジェクトの山田リーダー、各専門家、団員と下記について打合せを行う。

- a セミナーの日程、時間内容の詳細と確認
- b 会場の設定
JICAプロジェクトのCounterpart並びにCentro職員の絶大な協力を得て実施した。
- c 使用機材の準備：16m/mフィルム及びスライドプロジェクター、OHP、マイク
- d 修了証書の授与範囲の設定

当該証書の授与範囲については現地における正常な範囲を尊重することとし、参加記帳を行った者全員を対象とすることにした。

e セミナーにかかる諸経費

f 招待状及び案内通報

Centro 所長及び山田リーダーより下記に連絡

・ 近隣各漁業組合、漁業者

・ Concepcion 市の港湾、政府水産関係機関並びに大学等の教育機関

g その他

(2) セミナーの開催

Centro Lo Rojas の講堂で開催、参加者50名前後のテーブル、椅子を学校式に並べ設置する。

(a) セミナーのプログラム

10月 6日 (火)

14:30 受付 参加者の記帳、資料の提供

15:00 ~ 16:30 開講式

① 挨拶：Ponce 所長

倉持JICA所長

森 団長

② JICA事業の紹介：野津団員

③ 日本の沿岸漁業：16m/mフィルム

16:30 ~ 17:00 JICAプロジェクト施設の見学

10月 7日 (水)

10:00 ~ 12:00 講義 講師：森 敬四郎

「沿岸漁業の振興と定置網漁業」

15:00 ~ 17:00 講義 講師：斎藤 隆志

「定置網漁業と漁業協同組合」

10月 8日 (木)

10:00 ~ 12:00 講義 講師：世古 明也

「定置網漁業の小型船舶の機関保守と普及」

15:00 ~ 18:00 Panel Discussion 座長：山田プロジェクトリーダー

① 参加者より質問のみを一括して受ける

② 各質問に対する回答を各講師が行う

なお、Panel Discussion 開始に先立って、下記の一般説明

発表

- ① チリの水産一般事情
SERNAP VIII Region 所長
- ② Concepcion地区の漁業組合事情
Colukra 組合長

10月 9日 (金)

11:00 ~ 12:00 (参加者よりアンケートの提出)

閉講式

- ① 挨拶：Ponce 所長
倉持JICA所長
森 団長
- ② セミナー修了証書の授与 (51名)

12:00 ~ 15:00 Cocktail Party

Centroのロビーにて参加者により行う

(b) 参加者よりの質問事項

a 定置網漁業関係

- ・大謀網はイワン用にどうか？また、現在日本ではこの型の網が使用されていないのか
- ・定置網を設定するための条件として、地形の選定と魚群の来遊地点と、いずれがより重要か
- ・漁業者として、寒暖流（水温差のある水域）のある場所をいかにして知ることができるか。
- ・網に入った魚をアザラン（非常に多い）の害から守る方法
- ・罟網の袋網の引き揚げ方法、特に水深が深い場合
- ・定置網漁業の法規
- ・日本の漁獲統計上の沿岸漁業と近海漁業の区別
- ・定置網には来遊魚群の一部しか漁獲出来ないとされたが何故か
また、どのようにしてそれを知ることができるか
- ・定置網漁業の許可、免許はどのようにして決めるのか

b 漁業協同組合関係

- ・漁業協同組合（Pez Volador）の定置網漁業を含めた自営漁業の漁獲物及び組合員の漁獲物の大半を消費地である近辺の町へ搬出し、当地の漁業協同組合（El Tiburon）に委託し口銭3%を支払い販売してもらうとの事であるが、何故（Pez Volador）は（El Tiburon）に委託せず、直接販売しないのか

又、直接販売すれば口銭を支払う必要がなく、その分消費者に安く販売することが可能と思う。

本質問は、テキスト第2章に於いて定置網漁業自営の漁業協同組合の事例紹介をし、当漁協の漁獲物販売に関し、「当漁協が存在する漁村は小漁村なため仲買人が居らず、漁協所有の魚市場にて当地の小売人に販売するが、漁獲物の大半は漁協所有のトラックにて近くの消費地へ搬出し、その地の漁協に売上高の3%を口銭としてその組合に支払い販売を委託している」と紹介した事に関するものである。尚、漁業協同組合 (Pez Volador) とは、定置網漁業自営の漁協の名称であり漁業協同組合 (El Tiburon) とは、消費地に存在する漁協名である。

- ・中南米の漁協はどのような形にて成功しているのか
- ・定置網漁業経営企業 (La Bonita) の損益計算書の中で減価償却引当金の額が漁業協同組合 (Pez Volador) に比べ多額であるがその理由は

本質問は、テキスト第2章に於いて定置網漁業自営の漁業協同組合及び企業経営体の事例紹介のうち、損益計算書につき説明した事による。

- ・漁業権、定置漁業権及び優先順位について。

本質問は、テキスト第2章の個人経営の小型定置網 (樹網) 漁業経営体紹介の項に於いて、日本の漁業権につき若干触れた事による。尚、定置網漁業権の優先順位に関しては必ずしも漁協のみが第1位ではなく漁民会社、漁業生産組合等地区内漁民の大多数を含む漁民協同組織が第1位である事が帰国後判明した。

資料 (Asociaciones de Cooperativas Pesqueras en Japon) は、全漁連より出版された水産業協同組合の英語版をチリ沿岸漁業訓練普及プロジェクト・チームがスペイン語版化したものを現地にて印刷、配布した。

- ・チリに定置網漁業を導入した場合の組織、運営について
- c 小型船舶の機関保守関係
 - ・主機2基掛けの場合のプロペラ選定注意点
 - ・新船を作る場合のプロペラ選定注意点

- (c) 参加者のその他の意見
 - a 今後もこの種のセミナーを引続き開催してほしい
 - b 次回は増養殖技術に関するセミナーを開催してほしい
 - c 開催場所を変えてさらにセミナーを開き、広く技術普及してほしい
 - d 大学にも日本の技術者を派遣してほしい。また大学に技術協力のためのプロジェクトを作ってほしい (Concepcion 大学 Arturo Prat 大学)
 - e セミナーの日程にもうすこし余裕ある時間を組んでほしい

(d) 帰国研修員との意見交換 (Concepcion 市内)

帰国研修員と共に一夜、沿岸漁業普及プロジェクト専門家、団員と共に食事をしながら意見の交換を行った。同研修員は7名、彼らは神奈川国際水産研修センター及び水産研究所にて研修を受けたものである。この夕食会は終始楽しい会話が交され、思い出話、仕事上の悩み、技術上の問題etc. について話合った。

主な内容は下記の通り；

- a 再び日本に行って、さらに知識のレベルアップを図りたい
- b 情報の交換、特に技術に関しての情報が欲しい
- c チリ国内においては、勤務先の政府機関、大学の予算上、並びに技術者の不足によって十分な業務が果せない困難がある
- d 今回のセミナーは、一般漁業者、政府機関、大学関係と広い分野の人々が参加して行った企画は大変有益で、今後共、是非続けて開催してほしい

出席した帰国研修員は全員、大学、政府機関、研究機関、JICA プロジェクトのカウンターパートとして活躍している。

2. アルゼンティンの部

開催場所

Escuela Nacional de Pesca (Mar del Plata) の講堂

(1) セミナー開催に係る準備

(a) アルゼンティン JICA 事務所にて：

10月14日、JICA 事務所にて江塚職員、団員、木村リーダー、Ortiz 漁業学校々長、長嶋通訳を交じえ下記の事項について打合せを行った。

- a セミナー日程、時間、内容、方法の詳細
- b 参加者及び来賓者の予測

c. セミナー修了証書の準備

予め50名分を準備したが、不足が予測され、20名分増加の手配を行う

d. JICA事務所よりセミナー開催に係る連絡先

- ・Embajada del Japan (日本大使館)
- ・Direccion General de Instruccion Naval (海軍教育総局)
- ・Subsecretaria de Pesca (海洋庁)
- ・Escuela Nacional de Pesca (国立漁業学校)
- ・Instituto Nacional de Investigacion y Desarrollo Pesquero
(国立漁業調査開発研究所)

(b) Escuela Nacional de Pescaにて

10月15日、同校においてJICAプロジェクト木村リーダー、同専門家、Ortiz
同校々長、団員、長嶋通訳と下記の事項について打合せを行った

a. セミナー日程、時間、内容の詳細と確認

b. 会場の設定 (同校職員の協力によって実施した)

c. 使用機材の準備：チリと同様

d. 修了証書の授与範囲：

基本的には現地における慣行を尊重し、授与範囲は少なくともいずれかの講義1つに
参加し、かつPanel Discussionに参加した者に授与することとした

e. セミナーに係る諸経費

f. 招待状及び案内通報：Ortiz 校長より下記に連絡

- ・Mar del Plata市長
- ・Mar del Plata市の水産関係各組合、大学、国立研究所、港湾関係政府機関

(2) セミナーの開催

Escuela Nacional de Pescaの講堂にて開催

(a) セミナーのプログラム

10月19日(月)

9:00 受付 参加者の記帳 資料の提供

9:30 ~ 10:00 開講式

① 挨拶：Ortiz 校長

森 団長

Mar del Plata市長

- 10:05 ~ 11:00 ① 水産分野におけるJICA事業の紹介：野津団員
 ② 日本の沿岸漁業：16m/m フィルム
- 11:00 ~ 12:00 アルゼンティンにおけるJICA事業の現況紹介
 福田JICA事務所長
- 14:30 ~ 15:00 国立漁業学校の概要説明：Ortiz 校長
- 15:00 ~ 16:00 国立漁業学校見学

当日の参加者は85名の多人数であった

10月20日（火）

各講義に対する質問は予め全参加者に手渡してある質問用紙に記入して貰い、各講義終了毎に回収し、Panel Discussion において回答することとした

- 14:00 ~ 17:00 講義 講師：森 敬四郎
 「沿岸漁業の振興と定置網漁業」
 (Sr. Alfonso 帰国研修員も説明補助者として登場)
- 14:15 ~ 20:15 講義 講師：斉藤 隆志
 「定置網漁業と漁業協同組合」

10月21日（水）

- 14:00 ~ 17:00 講義 講師：世古 明也
 「定置網漁業と小型船舶機関の保守・普及」
- 17:15 ~ 20:15 ① Panel Discussion
 回答者：森、斉藤、世古、野津の各団員
 木村リーダー、猪本専門家、Ortiz 校長
 Maqui 同校教授、Alfonso 帰国研修員
- ② 調査結果の報告：Sr. Alfonso (20分)
 “Optimizacion de la Pesca de Centolla y
 Centollon en la Esla de Fierra del Fuego ”
 “フェゴ島周辺のカニ類Centolla , Centollon の漁獲
 試験”

10月22日（木）

- 15:00 ~ 15:30 参加者によるアンケートの記入
- 15:00 ~ 16:30 閉講式
- ① 挨拶：Ortiz 校長
 森 団長
- ② セミナー終了証書の授与 (58名)

16:30 ～ 17:30 セミナー評価会（於JICAプロジェクト専門家室）

出席者：森、斉藤、世古、野津の各団員

木村リーダー、猪本専門家

Ortiz 校長、Maqui 教授、Alfonso 帰国研修員

計 9名

- （意見）
- ① 予想外の各分野の人の参加を得て、また熱心なる質疑が行われ盛会であった。今後もこの種のセミナーを開くことが望ましい。
 - ② プログラムの日程にもう少し時間的余裕が欲しい、特Panel Discussionの時間が必要であった。

17:30 ～ 19:00 Cocktail Party

La Calacora レストランにて行なう

(b) 帰国研修員との意見交換（10月20日）

セミナーに参加した帰国研修員8名を囲んで団員4名及びJICAプロジェクト専門家4名と共に、夕食を共にして意見の交換を行った。大要は下記の通り

- ① 国立漁業学校関係の研修員6名は日本での研修期間がわずか1ヶ月であったので再び来日して、日本の各方面の視察並びに技術分野の研修を行ないたい
- ② 本セミナーは大いに歓迎するところで、今後も是非開催して欲しい
- ③ 今回は、広い分野のアルゼンティン人が参加して極めて有意義であった

(c) 質疑応答

a 定置網漁業関係

- ・国立漁業学校では何故沿岸漁業の振興に寄与する授業が行なわれないのか
- ・定置網はどのようにして網から漁獲物を採り上げるのか、また網の規模はどのようにして決めるのか
- ・アルゼンティンの沿岸でどのような型の定置網が適していると思うか、また何処の海岸が適していると思うか
- ・Mar del Plata近海は大規模会社によって漁業が営まれているが、その中に定置網漁業が参入できるだろうか、また網規模に伴う漁船の装備の変化は
- ・定置網による稚魚の乱獲は起り得ないか
- ・集魚灯のランプの強さの基準と、灯に付く魚種、付かない魚種は何か

- ・アルゼンティンで今まで定置網漁業が行なわれなかった理由は
- ・網目にささった魚は定置網の漁獲に影響するか、また網の清掃は必要か、濁った水の所でも操業できるか
- ・漁業の研究を行なううえに、何を行なえばよいか
- ・小エビを獲るのにどの型の定置網が適しているか、またサメが多い所なのでどのような防御方法があるか。操業可能流速は。潮差が7.5 mもあるがアカダイを獲るための漁具は何があるか、その漁具の網糸の太さ、目合、浮力は
- ・底質が岩の所でも定置網は敷設できるか
- ・定置網に使用する漁船の特徴は何か
- ・定置網の定義は何か。アルゼンティンで定置網が実用化する可能性はどの程度あるか。定置網の保護区域はどのようにして決めるか

b 漁業協同組合関係

- ・日本ではどのような機関が漁業開発、研究にタッチしているか。それは政府機関か或いは私的機関か
- ・漁業協同組合は、各組合員から委託された水産物を一度全部混ぜてから魚種別、品質別に分けて仲買人に販売するのか
- ・魚価の値下りに対し漁業協同組合はいかなる対策をとるか
- ・日本の正規の教育では協同組合主義に関する授業を実施しているか
- ・水産加工品を流通させる為のポイントは
- ・アルゼンティンの水産関係法規は適正なものか、非現実的なものか
- ・大量漁獲された場合、剰余分を保管しておき干漁期にそれを放出する流通システムをとっているが、それは適正であるか
- ・生産、加工においてコストを下げるためにはどのような工程を除けばよいか、どのような工程を機械化すればよいのか、また、それにより何%下がるか
- ・日本の漁業協同組合の剰余金の処理は
- ・アルゼンティンの漁民と日本の漁協との協力の可能性は、又、可能性が有る場合はどのような機関を通じてか
- ・1つの漁村に1つ以上の漁業協同組合は創れないのか、もし創れないならば、それは事業の独占化を意味しないか
- ・定置網漁業自営の漁業協同組合と民間企業との違いは何か
- ・総会の決議により非組合員が漁協の事業を利用できるならば組合員が漁協に加入しているメリットは何か（但し、信用事業を除く）
- ・1人の漁民或いは1共同経営体が種々の協同組合に加入することが可能か

- ・漁業協同組合が所有している魚市場に関して
 - a. 漁協が魚市場を管理、運営しているのは法令、水産庁の指図等に基づくものか
 - b. 漁協は魚市場を通じて流通にタッチしているが、その為に国家に対しなんらかのチャージを支払うのか
 - c. 仲買人は全ての漁協或いは漁港で買い付けが可能か、それとも限られた漁協、特別な漁港でのみ買い付けが可能か

◎ 小型船舶の機関保守関係

- ・効率のいいプロペラとはピッチが大きく低回転のものか
- ・現在マル デル プラタにある小型漁船で定置網漁業ができるか
- ・FRP 船のメリット、デメリットは
 - ・エンジン選定の際、良いエンジンでパーツがないよりも悪いエンジンでもパーツがあった方がよいとのことであるが、パーツにかかる費用を考えるとその逆ではないのか
 - ・全長20～25m の定置作業船で魚倉30ton と説明されたが総重量か又は魚箱で30ton分か
 - ・寝室はあるか、又、航海距離はどのくらいか
 - ・船体のFRP の厚さはどのくらいか
 - ・甲板の材料は何か
 - ・セミナーで説明されたウィンチの容量は
 - ・冷凍装置はあるか
 - ・船外機の排ガスに含まれる有害物質について実験を行った事があるか、又、ディーゼルエンジンと比べて公害に対する影響はどうか
 - ・FRP 船を建造する場合、木船、鋼船と比べ主機の馬力選定の際何か特別の関係があるか
 - ・プロペラ引き上げ装置とは何か
 - ・FRP 船の火気に対する弱さ、特にエンジンルームはどのようにしているか
 - ・レードライブシステムで本当に 100%トルクの取り出しが可能か
 - ・可変ピッチプロペラを使用した事があるか、もしあれば最上の効率を得る為と、そのコストとの関係はどうか
 - ・現在まで燃料として使用されている魚油はどのような特別な処理が施されているか
 - ・魚油の引火点は高いが、排ガス温度も高くなるのか

d. JICAの技術協力関係

- ・ JICAの技術協力として缶詰、品質監理、ボイラー技師等を含んだ研修は可能か
- ・ JICAの技術協力として養殖の専門家の派遣は可能か、又、どのように要請するのか

Ⅶ. 本セミナーのに係る所感

1. チリの部

- ① チリにおける沿岸漁業は、旋網及び底曳網漁業が主体を占め、定置網漁業はLo RojasにおけるJICAプロジェクトにおける日本の専門家によって始めて技術的体験を得たものである。従って、一般には未だ普及していない漁業の1つである。
- ② 漁業協同組合に関して、曾て軍事政権によって組合組織に弾圧を加えた時期を経て、現在は再び組織化が計られつつある。
- ③ かかる背景の下で、本セミナーを開催し参加者が、政府機関、大学関係、漁業組合下の漁業者及び一般漁業者であり、かなり幅広い分野からの参加者を得て、活発な意見の交換を行なうことができ、参加者は一様にセミナーを評価した。そして、今後もひきつづき、この種のセミナーの開催を強く要望され、今後のチリの沿岸漁業の発展に一石を投じたものと信ずる。
- ④ 本セミナーにおいて、その参加者数は当初予測していた員数より大幅に増加しており、沿岸漁業に大きな希望を有しており、その意義において、今回の講義内容も当を得たものと思料される。
- ⑤ かかる予想外の参加者数、また各分野からの参加を得たことは、彼らが日本からの知識の吸収を強く望んでいる表われであると共に、本セミナーをかかる盛會に導いたのは、その設定に極めて多忙の中を御尽力下さった倉持JICA所長並びにその職員各位、またJICAプロジェクトの山田リーダーと専門家各位の熱心な御協力を頂いた賜物であり、厚く感謝の意を表するものである。

2. アルゼンティンの部

- ① アルゼンティンもチリと同様に沿岸漁業は底曳網と旋網漁業によって代表され、定置網漁業は未経験である。
- ② 今回のセミナーに関して、海洋庁は沿岸漁業は各県単位で管轄されていることを理由に、その協力を拒み、同庁関係機関からの公式な参加を認めなかった。
- ③ かかる状況下にもかかわらず、チリと同様に大勢の参加者、広い分野、即ちMar del Plata市を中心とする政府機関、研究機関、大学関係、漁業組合員である漁業者、また経験豊かな漁業者等の各分野からの参加者を得て、意義ある会とすることを得た。

- ④ 特に、海洋庁管轄のINIDEPより個人の資格で大勢の研究者も参加し、かつ、日頃国立漁業学校に批判的であった一部の漁業組合も組合長以下職員も参加、始終熱心に傾聴していた。
- ⑤ さらに、一部の帰国研修員も講師陣に参加し、セミナーの意義をもり上げる一助ともなり、かつ本人の今後の業務の展開に好結果を齎すものとなろう。
- ⑥ 各講義に対する参加者の質問内容は多岐に亘るが、漁業技術に関しては導入への模索、漁業組合に関しては行政及び漁協活動に関するものが中心となり、船舶の機関に関してはかなりレベルの高い専門事項もあり、いずれも活発な応答があつて有意義なセミナーとなることのできたものと思う。
- ⑦ 本セミナーを開催するにあたり御尽力頂いたJICA事務所の福田所長、江塚職員並びに各職員、また国立漁業学校Ortiz 校長と各職員、JICAプロジェクトの木村リーダーと各専門家に厚く感謝の意を表する次第である。

Ⅷ. アンケートについて

1. セミナーに何を期待していたか。

(チリ)

- ・漁民の組織化(漁業協同組合)について (9)
- ・新しい知識、技術を吸収したい (9)
- ・定置網漁業について (8)
- ・小型船舶の機関保守について (3)
- ・チリに実現可能な技術 (2)
- ・日本の沿岸漁業の現況 (1)
- ・資源問題について (1)

プロジェクトによって定置網がすでに紹介、実施されているところから定置網について深く知りたいという期待とともに操業、運営にかかわるためか漁業協同組合組織についてもくわしく知りたいという期待が高く、又、この他日本の一般的な沿岸漁業を知り、その中から自国に役立つものを見つけないとする期待もあった。

(アルゼンティン)

- ・新しい知識、技術を吸収したい (14)
- ・現在の沿岸漁業の各種漁具について (5)
- ・定置網漁業について (2)
- ・アルゼンティンで利用可能な新しい漁法 (2)

- ・漁業協同組合について (1)
- ・日本の沿岸漁業の現況 (1)
- ・養殖について (1)
- ・アルゼンティンの漁法改善についての討論 (1)

定置網漁業がいまだ未知の漁法であるためか一般的に新しい知識、技術を吸収したいという期待であった。

(考察)

両国について言える事は新しい知識の吸収には極めて熱心であり如何に情報に飢えているかが伺われる。したがって、情報提供の機会を今後如何に現実化していくかが重要であろう。

2. セミナーはどの程度期待に応えたか。

(チリ)

期待どうり	3 (9.1%)	
ほとんど期待どうり	15 (45.5%)	54.6%
まあまあ期待どうり	9 (27.3%)	27.3%
少しだけ	1 (3.0%)	
まったく期待はずれ	2 (6.0%)	9.0%
無回答	3 (9.1%)	

- ・時間が短すぎた。
- ・深く掘り下げられなかった。
- ・他国での実績をふまえた定置網についての説明がほしかった。
- ・もっと広いテーマがよい。

定置網、漁業協同組合について深く掘り下げて知りたいという期待が高かったが、時間的にも充分でなく講義が概論的にならざるをえなかった結果であろう。

(アルゼンティン)

期待どうり	11 (22.4%)	
ほとんど期待どうり	26 (53.1%)	75.5%
まあまあ期待どうり	9 (18.4%)	18.4%
少しだけ	3 (6.1%)	
まったく期待はずれ	0	6.1%

- ・アルゼンティンで使用した際の問題点について知りたかった
- ・通訳が入って迫力に欠けた
- ・もっと広範囲なテーマで
- ・各講義が表面的すぎた

新しい知識、技術を吸収したいという期待には充分応えられたものと思われるが、未だ未経験の漁法であるためかどう活用できるのか見当がつかないとまどいもあったものと思われる。

(考察)

両国の参加者のセミナーに対する期待の内容に差は有るが両国ともその期待には充分応えられたセミナーであったものと思われる。

3. セミナーでの知識をどの程度仕事にいかせるか。

(チリ)

全部活用できる	3 (9.1%)	
ほとんど	7 (21.2%)	30.3%
だいたい	11 (33.3%)	33.3%
すこし	9 (27.3%)	
まったく活用できない	2 (6.1%)	33.4%
無回答	1 (3.0%)	

- ・現在漁業に従事していないので
- ・経済的にむづかしい
- ・技術的に差異がある
- ・高度すぎる

講義が概論的であり現在実際に操業している漁民からすれば既に知っている知識もあったものと思われる。

又、チリの経済及び漁師の経済力、技術力からして知識の応用という点からすればむづかしいということであろうか。

(アルゼンティン)

全部活用できる	1 (2.0%)	
ほとんど	16 (32.7%)	34.7%
だいたい	26 (53.1%)	53.1%

すこし	5 (10.2%)	
まったく活用できない	1 (2.0%)	12.2%

- ・現在の業務が違う
- ・沿岸漁業は発達していないから

まったく新しい漁法のためどこでどう活用したらいいのか見当がつかないといったのが現状か、組合組織については非常に整備されておりこの点では今回のセミナーが大いに役に立ったものと思われる。

(考察)

どの講義、あるいはどの部分が現在の業務にいかせるのか明確ではないが、アンケートの集計からみると今回のセミナーで得た知識は現在にいかせるとしており、両国の参加者の意欲はセミナー実施中から感じられたものであり将来に期待したい。

4. 今後のセミナーの改善について

(チリ)

- ・テーマの掘り下げ
- ・時間に余裕を持たせる
- ・実習の導入
- ・チリ専門家との合同セミナー
- ・パネルディスカッションへのチリ人の参加

セミナーでは時間的にも余裕を持ち実習を加えるべきとする声が強く、又、セミナーにはチリ側の専門家も参加しチリの水産について具体的な見解、意見を交換してほしいとする声もある。

(アルゼンティン)

- ・テーマの広がり
- ・時間の不足
- ・質問は講義の終了時に
- ・漁業協同組合についての詳細
- ・言葉
- ・現場視察を入れる

新しい知識を得るためにはもっと幅広い内容の講義、セミナーであってほしいとする声強い

(考察)

両国に言える事はセミナーの期間を延ばし実習あるいは現場視察等を含んだ時間的に余裕のあるセミナーであることが必要であろう。

農林水産の研修では理論と実習が常に一体となったものが要求されるところと同様である。

Ⅸ. 提 言

従来、帰国研修員のフォローアップの一環としてセミナーを実施してはいるが、今回は帰国研修員のみならず漁業者も含めた広範囲な参加者に対する公開技術セミナーを実施した。

アンケートの結果にもみられるとおり各国の漁業関係者、特に実際に漁業に従事している漁業者にとっては如何に生活を向上させていくかが毎日の課題であるためか、新しい情報に接することを熱望している。

この点から情報提供としてのセミナー実施は意味のあることであるが、継続して実施することが重要であろう。

セミナーのテキスト、講義における言語もなるべく漁業者でも理解できる言語を使用する必要があるし、内容については当該国の漁業事情を充分検討した上でそれに適合する内容を決定することも必要であろう。

開催の拠点としては常に広範囲な参加者が期待できる場所が重要であり、又、開催にあたっては事前の広報が不可欠であることから次の様な場所が適当と考えられる。

- ① JICAプロジェクトのある場所
- ② 専門家が派遣されている場所
- ③ 協力隊員が配属されている場所
- ④ 帰国研修員が活躍している場所等での開催が参加者を集めること、及び事前の広報の点からも有効であろう。勿論セミナーチーム、専門家あるいは協力隊員と現地JICA事務所、あるいは日本大使館とのきめ細かな協力、連携は言うまでもなく、さらに、現在セミナーの日程では概論的なセミナーになりがちであり参加者の期待に応えるためには期間を延長し、技術セミナーであることからして講義のみならず実習、実技の時間も加えるべきであろう。

こういう観点からすればセミナーとはいえ将来的にはただ単なる情報提供のみで終始することなく発展性をもたせるためには途上国で実施する研修プログラムコースのひとつとしてとらえることも必要であると思料される。

理想的にいえばこの様な途上国での研修としてのセミナー実施の重要性、有効性が当該国の行政機関において認識されればJICAプロジェクト等を拠点とした第3国研修の実施要請へと

発展していく可能性は高く、又、新たな技術協力を生ずることも考えられる。できればこの公開技術セミナーが各地域に適正で、実効性のある第3国研修として定着していくことを強く望むとともに、そのような方向でこの公開技術セミナーを位置付け、検討してほしい。

資 料

1. 掲 載 新 聞 記 事
2. 参 加 者 名 簿
3. 使 用 テ キ ス ト
4. ア ン ケ ー ト 用 紙
5. 終 了 証 書

Tecnologías de captura

Japón enseña a pescadores

• Seminario se desarrollará en Centro de Lo Rojas, de Coronel, y durante su realización técnicos nipones traspasarán experiencia de cien años que tienen en la actividad pesquera.

Con el fin de difundir tecnologías de pesca que se conocen y practican en Japón desde hace 200 años y que en otros países pueden ser adaptadas a la realidad local para obtener un mejor aprovechamiento de los recursos marinos, se inició ayer en Coronel el Seminario sobre Pesca Costera, organizado por la Agencia Internacional de Cooperación de Japón, JICA.

El evento cuenta con el patrocinio de la Fundación para la Capacitación del Pescador Artesanal, FUNCAP, con sede en Lo Rojas, Coronel, lugar en el cual se dictará el seminario de tres días. En la sesión inaugural, a la que fueron invitadas autoridades y profesionales del sector, participaron el director del centro de la FUNCAP, Fernando Ponce Soto, la jefa de la oficina de la JICA en Chile, Hiroko Kuramochi, quien tiene rango diplomático; el jefe de la misión de seminario, doctor Keishiro Mori y el exbecario, Hans Schlosser.

El director de la FUNCAP, centro donado por el gobierno japonés para capacitar y entrenar monitores en pesca artesanal, destacó los temas que serán abordados: almadraba, arte de pesca tradicional de Japón, cooperativas;

mantención de botes y lanchas pesqueras y difusión de pesca costera. Hiroko Kuramochi, por su parte, sostuvo que la JICA es una institución del gobierno japonés que colabora con los países en vías de desarrollo en materias tales como pesca, agricultura, electrónica y otros temas y que ha becado a más de 62 mil personas, entre ellas chilenos.

El jefe de la misión de seminario, doctor Keishiro Mori, explicó que una de las técnicas más exitosas empleadas por los pescadores artesanales de su país es la almadraba, que fija las redes en el fondo marino y captura los peces que entran al espacio conformado por ellas. Es un sistema pasivo, que favorece la conservación de otros recursos naturales, ya que no provoca grandes trastornos. Estas mismas instalaciones, dijo, sirven para iniciar cultivos marinos. También se exhibió una película que muestra la forma en que los pescadores aumentan el valor de su captura, conservando a los peces vivos en recipientes con agua salada o a los mariscos frescos en cajas con hielo, lo que aumenta su cotización en el mercado. En estos casos, el ingenio y la tecnología van de la mano.

Habr  un seminario de pesca costera

Entre el 19 y 22 de este mes la Agencia de Cooperaci n Internacional del Jap n (JICA), llevar  a cabo un seminario t cnico sobre promoci n de la pesca costera.

La referida agencia es una organizaci n del gobierno japon s encargado de ejecutar los programas de cooperaci n t cnica, y est  brindando tambi n asesoramiento y ayuda en el  rea pesquera.

Uno de los factores m s importantes de la cooperaci n t cnica es la formaci n de recursos humanos, y para ello Jap n ha recibido como becarios a profesionales de la Argentina, que han participado en diferentes cursos grupales e individuales.

Este seminario tiene como destinatarios a los becarios que han concurrido a los mencionados cursos, y a los profesionales que tienen relaci n con la pesca. Los temas que se desarrollar n abarcan "Artes de pesca costera con redes fijas"; "Organizaci n de cooperativas pesqueras", y "Mantenimiento de Buques de Pesca Costeros".

Los interesados en participar de este ciclo pueden retirar los formularios de inscripci n en la Escuela Nacional de Pesca, Mart nez de Hoz e Irala, puerto, todos los d as h biles de 15 a 19, y el 19 de este mes en el mismo lugar de 9 a 9.30. El seminario es gratuito, y se otorgar  certificado de asistencia.

PESCA COSTERA: PROMOCION

MAR DEL PLATA.— Entre el 19 y el 22 de octubre la Agencia de Cooperaci n Internacional del Jap n (JICA) llevar  a cabo en la Escuela Nacional de Pesca un Seminario T cnico sobre "Promoci n de la Pesca Costera".

Dicha Agencia es una organizaci n del gobierno japon s encargado de ejecutar los programas de cooperaci n t cnica y est  brindando tambi n asesoramiento y cooperaci n en el  rea pesquera. Uno de los factores m s importantes de

la cooperaci n t cnica es la formaci n de los recursos humanos, y para ello Jap n ha recibido como becarios a profesionales de Argentina que han participado en diferentes cursos grupales e individuales.

Este seminario tiene como destinatario a los becarios que han concurrido a los mencionados cursos y a los profesionales que tienen relaci n con la pesca. Los temas que se desarrollar n abarcan "Artes de Pesca Costera con Redes Fijas", "Organizaci n de Coepe-

rativas Pesqueras" y "Mantenimiento de Buques de Pesca Costeros".

Los interesados en participar en dicho seminario pueden retirar los formularios de inscripci n en la Escuela Nacional de Pesca, Avenida Mart nez de Hoz y calle Irala Puerto Mar del Plata de lunes a viernes en el horario de 15 a 19 hs.

Tambi n podr n inscribirse el lunes 19 de octubre de 9 a 9.30 hs antes que comience el mismo. El seminario, es gratuito, y se otorgar  un certificado de asistencia.

Cooperación japonesa

Preparan seminario sobre pesca costera

La Agencia de Cooperación Internacional del Japón —JICA—, organismo oficial del gobierno de ese país ejecutor de los programas de cooperación técnica entre gobiernos y también en el área de la pesca, celebrará en la Escuela de Pesca de nuestra ciudad, un Seminario Técnico sobre "Promoción de la Pesca Costera".

El encuentro se iniciará el 19 del corriente y habrá de extenderse hasta el día 22, siendo sus oradores el Dr. Kelshiro Mori (Pesca con redes), y los especialistas Takashi Saito (Cooperativas pesqueras) y Akiya Seko (Mantenimiento de pequeños buques pesqueros).

El seminario, que cuenta con la colaboración del gobierno argentino, se iniciará a las 9 del día 19 con la inscripción de participantes, realizándose a las 9.30 y hasta las 10, la ceremonia de apertura. Desde las 10 y hasta las 11, se tratará la "Actividad de Cooperación técnica de JICA en el área de la pesca" y a las 11, "Actividad de JICA en Argentina", esta última a cargo del director de la Oficina de Argentina de JICA.

Luego de un almuerzo libre, a las 13.30 se presentará la situación argentina en el área de la pesca, por parte de un funcionario de la Subsecretaría de Pesca. A las 14.30 y hasta las 16.30, se visitará el lugar del proyecto de JICA.

El martes 20 de octubre las actividades se iniciarán a las 14, hablando uno de los oradores sobre el "Arte de la pesca por redes". Luego de un breve intermedio, a las 17.15, se hablará sobre "Cooperativas pesqueras".

El miércoles 21, también a partir de las 14, el tema a tratar será "Mantenimiento de los pequeños buques pesqueros" y luego de un intermedio, los panelistas discutirán sobre la promoción de la pesca costera. Dicho panel estará integrado por uno de los oradores, funcionario de la Subsecretaría de Pesca, experto de JICA de la Escuela Nacional de Pesca, representante de la Escuela Nacional de Pesca, y dos ex-beccarios de Argentina al Japón.

Por último el 22 de octubre, último día del seminario, a las 14 se producirá la entrega del informe por parte de los participantes, a las 15 se evaluará el encuentro y a las 16.30 y hasta las 17 se desarrollará la ceremonia de clausura.

Los participantes recibirán certificados al término del seminario, debiendo para concurrir a él, remitir el correspondiente formulario a JICA Argentina, o llamar al teléfono 311-0514 Capital Federal.

Sábado 17 octubre 1987

Organizado por la JICA

Curso promocional sobre pesca costera

El próximo lunes en la Escuela Nacional de Pesca comenzará un seminario sobre "Promoción de la pesca costera" organizado por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA), organismo gubernamental de ese país.

A la ceremonia de Inauguración han sido invitadas autoridades municipales, funcionarios nacionales y provinciales relacionados con el área de pesca, armadores, industriales pesqueros y profesionales vinculados a este importante sector de nuestra ciudad.

Durante el seminario se tratarán temas sobre "Artes de pesca costera con redes filjas", "Organización de cooperadoras pesqueras" y "Mantenimiento de buques para pesca costera".

Es de destacar que en la Argentina, la Agencia de Cooperación Internacional del Japón ha participado en tres importantes proyectos como son la Escuela Nacional de Pesca, el Centro Nacional para Capacitación Ferroviaria de Ferrocarriles Argentinos, y el Centro de Investigación en el Hospital "San Roque" de Córdoba. Asimismo, ha concretado el envío de setenta becas al Japón, para realizar cursos de perfeccionamiento, y la donación de equipos y materiales a diversas instituciones.

Lunes 19 octubre 1987

Inauguran seminario sobre pesca costera

Hoy a las 9.30. dará comienzo en la Escuela Nacional de Pesca, el seminario técnico sobre "Promoción de la Pesca Costera", organizado por la agencia de cooperación internacional del Japón, organización gubernamental dependiente de dicho país.

A la ceremonia de apertura ha sido invitado el intendente municipal, funcionarios nacionales y provinciales relacionados con el área de la pesca, como así también armadores, industriales pesqueros y profesionales del sector. El seminario finalizará el jueves próximo, las conferencias y debates se llevarán a cabo diariamente entre las 14 y las 20, y los interesados en participar pueden inscribirse hoy entre las 8, y las 9.30, en la sede de la Escuela Nacional de Pesca, y los días siguientes, a las 14, en dicho Instituto.

Serán oradores en este encuentro, el doctor Keishiro Mori, que se referirá a la pesca con redes, Takashi Saito, sobre Cooperativas Pesqueras y Akira Seko sobre mantenimiento de buques pesqueros. Se estableció finalmente que se entregarán certificados a cada uno de los participantes.

Lunes 19 octubre 1987

COMIENZA SEMINARIO REFERIDO A LA PESCA

MAR DEL PLATA.— Un seminario sobre "Promoción de la Pesca Costera" dará comienzo en el día de la fecha en la Escuela Nacional de Pesca, en el Puerto, el que ha sido organizado por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA) organización gubernamental del país nipón.

En el acto de apertura estarán presentes autoridades municipales, funcionarios oficiales relacionados con el área de la pesca, armadores, industriales pesqueros y profesionales vinculados a este importante sector de la actividad marplatense, así como el personal directivo y docente y alumnos de la escuela y el jefe de la misión japonesa en la Escuela Nacional de Pesca, señor Yukichi Kimura.

Durante el seminario se

tratarán temas referidos a "Artes de Pesca Costera con redes fijas", "Organización de Cooperativas Pesqueras" y "Mantenimiento de buques para pesca costera".

Cabe mencionar que en la Argentina, la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA) ha participado en tres proyectos de gran importancia que son la Escuela Nacional de Pesca de Mar del Plata, el Centro Nacional para Capacitación Ferroviaria de Ferrocarriles Argentinos, y el Centro de Investigación en el hospital "San Roque" en la ciudad de Córdoba. Asimismo, ha condecorado el envío de setenta becarios al Japón para realizar allí cursos de perfeccionamiento en centros especializados, así como ha concretado la donación de equipos y materiales a diversas instituciones.

JAPONESES DICTAN SEMINARIO SOBRE PESCA



Parte de los asistentes al seminario sobre la pesca costera que es dictado por integrantes de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón.

MAR DEL PLATA.— En la Escuela Nacional de Pesca se inició ayer un seminario técnico sobre "Promoción de la pesca costera" el que estará a cargo de integrantes de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón. Son destinatarios del mismo los becarios argentinos que oportunamente participaron en cursos de perfeccionamiento en el país nipón, como también funcionarios, profesionales y personal relacionado con la actividad pesquera.

La delegación japonesa que integra el grupo de técnicos está presidida por dos importantes figuras del sector, como son Masaki Fukuda y Keishiro Mori.

PARTICIPANTES

PROYECTOS EN MARCHA INCLUYEN ENVIO DE 70 BECARIOS ANUALES AL JAPON

MAR DEL PLATA.— En oportunidad de la inauguración del seminario sobre Promoción de la Pesca Costera, el director de la Escuela Nacional de Pesca, capitán (RE) Justo Ortiz de JICA se realizaron actividades de Cooperación Técnica de acuerdo al Convenio de Cooperación Técnica suscrito entre los gobiernos de Argentina y Japón en el año 1979 (Ley 22.479).

Según la oficina de JICA en Argentina, los proyectos que actualmente están en marcha son los siguientes:

- Anualmente se envían alrededor de 70 becarios argentinos al Japón de acuerdo al programa de becas.
- En este momento se encuentran 5 expertos individuales de largo plazo cuyas especialidades son: a) Selección de minerales; b) Paleología de soja; c) Virología

El director de la Escuela Cap. Justo Ortiz destacó la importancia del convenio suscripto en el año 1979 (Ley 22.479)

Finalmente Ortiz puntualizó: "Además de la Cooperación Técnica "tipo proyecto", se ha efectuado la donación de equipos para la Facultad de Ciencias Veterinarias de la Universidad Nacional de La Plata".

A ello añadió que existen también proyectos de estudio para el desarrollo, los cuales son:

- 1.— Proyecto de expansión de las redes de Telecomunicaciones, Radio y Televisión de la Provincia de Mendoza.
- 2.— Proyecto para el Desa-

queas. **PALABRAS DEL INTENDENTE** Al hacer uso de la palabra, Angel Rogg dijo entre otras cosas lo siguiente:

"Nosotros queremos agradecer, hecho hasta ahora, en su contribución el gobierno y la Agencia de Cooperación de Japón. Queremos agradecerle esta participación de este seminario y decirle que desde Mar del Plata esta comunidad y este gobierno quieren seguir acrecentando los lazos de unión y de estrecha amistad. Gran parte de esa contribución ha estado puesta en esta escuela, pero además en hechos que parecieran menores también, esta infraestructura ha ayudado a nuestro Museo de Ciencias Naturales, que ha desarrollado prácticamente en este último tiempo una acción de modernización, con la cual queremos destacar de la voluntad de este municipio de poder alcanzar metas superiores con esta manifestación del Museo de Ciencias Naturales ha tenido mucho que ver la captura de especies por parte de esta Escuela. Es decir que indirectamente Japón también ha participado con su ayuda para nosotros poder llevar adelante nuestros planes. Quiero con esto traer la expresión de con gratulación y de satisfacción de la Municipalidad de General Pueyrredón para que temas de tanta trascendencia, de tanta importancia sean estudiados aquí, y tener también la seguridad, señor representante de la Agencia Cooperativa, de nuestro permanente agradecimiento y amistad".

Por la tarde, el capitán (RE) Ortiz pronunció una conferencia sobre "Proyecto de la Escuela Nacional de Pesca y Convenio argentino-japonés de cooperación técnica".

Para hoy, en horas de la tarde, el jefe de la misión, Ingeniero Mori, hablará sobre artes de pesca costera con redes fijas, en tanto Takashi Sallo disertará sobre organización de cooperativas pes-

La ceremonia de apertura, realizada en la mañana de ayer, contó con la presencia del intendente Angel Rogg, el delegado municipal del puerto Jorge Iacono y el titular de la Escuela Nacional de Pesca Justo Alberto Ortiz, iniciándose de inmediato el seminario con dos exposiciones.

El director de la Escuela Cap. Justo Ortiz destacó la importancia del convenio suscripto en el año 1979 (Ley 22.479)

Finalmente Ortiz puntualizó: "Además de la Cooperación Técnica "tipo proyecto", se ha efectuado la donación de equipos para la Facultad de Ciencias Veterinarias de la Universidad Nacional de La Plata".

A ello añadió que existen también proyectos de estudio para el desarrollo, los cuales son:

- 1.— Proyecto de expansión de las redes de Telecomunicaciones, Radio y Televisión de la Provincia de Mendoza.
- 2.— Proyecto para el Desa-



Inauguraron un seminario

Incorporan técnicas en la pesca costera

En la Escuela Nacional de Pesca de Mar del Plata se inició en la víspera un seminario técnico sobre "Promoción de la Pesca Costera", organizado por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA), el que se extenderá hasta el jueves inclusive. El intendente municipal Ángel Roig asistió en la mañana de ayer a la ceremonia de inauguración del seminario, acompañado por el secretario de Economía y Hacienda, contador Mauricio Irigoin, el delegado municipal en el Puerto, doctor Jorge Jácono, y el concejal Carlos Pi de la Serra, entre otras altas autoridades. El seminario, según se informó, tiene como destinatarios a los becarios argentinos que han participado en cursos de perfeccionamiento en Japón, como así también funcionarios, profesionales y personal relacionado con la actividad pesquera. Para referirse a los aspectos y trascendencia de este encuentro, bastan en primer término el director de la Escuela Nacional de Pesca, capitán de navío (E) Justo Ortiz, y el jefe de la misión japonesa, ingeniero Keishiro Mori, y finalmente, quien a gradeció la contribución del gobierno de Japón y a la agencia de cooperación. "Queremos agradecerle —señaló— esta participación de este seminario, y decirles que desde Mar del Plata esta comunidad y este gobierno quieren seguir acrecentando los lazos de unión y de estrecha amistad. Gran parte de esa contribución —continuó— ha estado puesta en esta escuela, pero además en hechos que parecerían menores también esta infraestructura ha ayudado a nuestro Museo de Ciencias Naturales, que ha desarrollado prácticamente en ese último tiempo una acción de modernización, con la cual queremos decir de la voluntad de este municipio de poder alcanzar metas superiores con esta manifestación del Museo, ha tenido mucho que ver con la captura de especies por parte de esta escuela". Luego Roig alegó que Japón también ha participado con su ayuda "para que

nosotros pudiéramos llevar adelante nuestros planes. Quiero con esto —añadió— expresar la expresión de gratitud y de satisfacción de la municipalidad de General Pueyrredón para que temas de tanta trascendencia, de tanta importancia, sean estudiados aquí, y tener también la seguridad, señor representante de la agencia cooperativa, de nuestro permanente agradecimiento y amistad".

Tras el acto, I.A. CAPITAL dialogó con el director de la Escuela de Pesca, quien explicó que "este es un seminario técnico pesquero, orientado hacia la promoción de la pesca costera y en ese sentido la Agencia de Cooperación Internacional de Japón es el organismo encargado de difundir nuevas tecnologías para la Argentina, porque esto que se va a explicar acá ya lleva más de 200 años, es decir, la pesca con redes fijas en la costa". El capitán de navío Justo Ortiz informó que a través de la pesca con redes fijas "se establecen campos o redes que periódicamente se recorren y se abren con distintas embarcaciones, conviniéndose en una especie de trampa para capturar peces. Yo he venido a aprender a este seminario porque no conozco estas nuevas técnicas, y también estoy estudiando atentamente esto porque pienso que puede ser algo para el futuro argentino. Eso requiere —continuó— estudios previos de la costa desde el punto de vista hidrográfico, de las condiciones del mar y de las especies que pueda haber para ver si son rentables para emprender una iniciativa de esta envergadura. Esta es una presentación de algo que los argentinos dirán si les conviene o no en el futuro, que podrá ser interesante o no de acuerdo a lo que cada uno asimile".

Seguidamente, el capitán Ortiz señaló que para tal evento "hemos invitado a todos los representantes de los distintos sectores de la pesca, a las cooperativas, a la Sociedad de Patronos, a las cámaras de empresarios, Industriales, armadores, en fin,



Un pasaje del acto inaugural del seminario técnico sobre Promoción de Pesca Costera. Estuvo presente el intendente municipal.



El director de la Escuela de Pesca, capitán de navío (E) Justo Ortiz, explicó a I.A. CAPITAL los objetivos del encuentro que allí se desarrolló.

Yo continuará el seminario, en la misma escuela, a partir de las 14, cuando Keishiro Mori se referirá al tema "Artes de pesca costera con redes fijas", hasta las 17 aproximadamente. Un cuarto de hora después, según el programa, Takashi Saito se referirá al tema "Cooperativas pesqueras, su organización".

todos los que tienen algo que ver con la pesca están aquí representados". En otro aspecto, afirmó que la Escuela "aparte de ser el único instituto que enseña esta actividad, pretendemos también que la escuela sea una especie de polo, pequeño de difusión de ideas, lo que hacemos con mucho gusto".